



2024年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月6日

上場会社名 株式会社ユビテック 上場取引所 東
コード番号 6662 URL <https://www.ubiteq.co.jp/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)大内 雅雄
問合せ先責任者 (役職名)管理統括部長 (氏名)江面 祥行 (TEL)03(5447)6731
四半期報告書提出予定日 2024年2月6日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年6月期第2四半期の連結業績(2023年7月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第2四半期	432	24.5	△163	—	△162	—	△164	—
2023年6月期第2四半期	347	△31.9	△143	—	△143	—	△128	—

(注) 包括利益 2024年6月期第2四半期 △164 百万円 (—%) 2023年6月期第2四半期 △128 百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年6月期第2四半期	円 銭 △11 13	円 銭 —
2023年6月期第2四半期	円 銭 △8 67	円 銭 —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年6月期第2四半期	百万円 2,450	百万円 2,188	% 88.0
2023年6月期	2,626	2,352	88.3

(参考) 自己資本 2024年6月期第2四半期 2,155 百万円 2023年6月期 2,320 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年6月期	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 0 00
2024年6月期	—	0 00	—	—	—
2024年6月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2024年6月期の期末配当予想については、現時点では未定であります。

3. 2024年6月期の連結業績予想(2023年7月1日~2024年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,200	21.8	—	—	—	—	—	—	—

(注)1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 営業利益以下の各段階利益につきましては、現時点で合理的に算定することが困難であることから、未定といたします。今後、業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年6月期2Q	14,791,600株	2023年6月期	14,791,600株
② 期末自己株式数	一株	2023年6月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	14,791,600株	2023年6月期2Q	14,791,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移した一方で、ウクライナ情勢の長期化や中東地域を巡る地政学的リスクの高まりに加え、継続的なエネルギー・原材料価格の高騰や物価上昇などの影響により、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社及びユビテックソリューションズは2022年6月期を初年度とする4カ年の中期経営計画「ユビテック4.0」を策定いたしました。本中期経営計画では従来から保有するIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用をコア技術の柱とした新たなビジネスモデルへの転換を図っており、経営資源を「Work Mate」「D-Drive」「カーシェア関連事業」の3事業に集約し、各サービスの開発、リリース、ブラッシュアップに注力しております。

当第2四半期連結累計期間における主な活動といたしましては、安全見守りサービス「Work Mate」及び安全運転支援サービス「D-Drive」のブラッシュアップや営業展開を行うとともに、前連結会計年度から引き続きWEBマーケティング及びウェビナーなどによる情報発信や展示会への出展等を通じて、新規顧客の獲得に向けたプロモーション活動に積極的に取り組んでおり、弊社ホームページ上で順次お知らせいたしているように、導入実績は順調に増加しております。またカーシェア事業関連においては、第1四半期に引き続き、高い安全性と汎用性を目指した新型車載機の開発に着手しました。なお「Work Mate」については、防爆対応に係る開発が完了したことから、新たに化学工業や石油精製等のプラントなどの防爆エリアでの利用が可能となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は432百万円（前年同四半期比24.5%増加）、営業損失は163百万円（前年同四半期は営業損失143百万円）、経常損失は162百万円（前年同四半期は経常損失143百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は164百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失128百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

IoT事業

IoT事業は、テレマティクス車載機出荷停止による保守売上減少分を「Work Mate」及び「D-Drive」の実績増加がカバーし、売上高は増収となりましたが、利益面につきましては、売上構成の変化による利益率低下及び広告宣伝費の増加等により、損失幅は前年同四半期より拡大しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は303百万円（前年同四半期比48.4%増加）、セグメント損失は51百万円（前年同四半期はセグメント損失30百万円）となりました。

製造受託事業

製造受託事業は、紙幣鑑別センサモジュール及び通信アミューズメント機器の受注が減少する中、新規の量産案件として前第3四半期より医療業界向けに咬合力計測機器用回路基板の販売を開始しており、当連結会計年度においては下期での売上計上を予定していることから、売上高は第1四半期同様、低調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3百万円（前年同四半期比74.5%減少）、セグメント損失2百万円（前年同四半期はセグメント損失3百万円）となりました。

開発受託事業

開発受託事業は、子会社のユビテックソリューションズにおいて、医用分野における受託開発案件規模縮小の影響により、売上高は減収となりましたが、前連結会計年度から継続して取り組んでいる業務効率化効果により、セグメント利益は前年同四半期の赤字から黒字へ転換いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は125百万円（前年同四半期比3.4%減少）、セグメント利益は2百万円（前年同四半期はセグメント損失10万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は2,450百万円となり、前連結会計年度末から175百万円減少しております。主な内容としましては、現金及び預金171百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が122百万円減少しております。

(負債の状況)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は262百万円となり、前連結会計年度末から11百万円減少しております。主な内容としましては、支払手形及び買掛金が26百万円減少しております。

(純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は2,188百万円となり、前連結会計年度末から164百万円減少しております。主な内容としましては、親会社株主に帰属する四半期純損失164百万円の計上によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、以下の各キャッシュ・フロー状況とそれらの増減要因により、前連結会計年度末に比べて171百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末は1,345百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は63百万円(前年同四半期は17百万円の支出)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失162百万円、減価償却費31百万円、売上債権の減少122百万円、棚卸資産の増加37百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は108百万円(前年同四半期は81百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出59百万円、無形固定資産の取得による支出50百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は0百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の連結業績予想につきましては、2023年8月4日付「2023年6月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

なお、売上高以外の業績予想につきましては、現時点においては信頼性の高い数値を合理的に算出することが困難な状況であることから未定とし、記載しておりません。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,017,194	1,845,268
受取手形、売掛金及び契約資産	268,785	146,154
電子記録債権	583	624
商品	25,958	42,110
製品	6,642	13,947
仕掛品	136	951
原材料及び貯蔵品	92,496	105,912
その他	26,832	30,958
流動資産合計	2,438,629	2,185,927
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	58,644	55,985
減価償却累計額	△28,375	△27,113
建物及び構築物(純額)	30,268	28,872
工具、器具及び備品	321,858	353,791
減価償却累計額	△246,454	△239,235
工具、器具及び備品(純額)	75,403	114,555
有形固定資産合計	105,672	143,428
無形固定資産		
その他	49,827	88,933
無形固定資産合計	49,827	88,933
投資その他の資産		
その他	32,376	32,444
投資その他の資産合計	32,376	32,444
固定資産合計	187,876	264,806
資産合計	2,626,505	2,450,733

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	46,179	19,514
電子記録債務	139,291	146,744
未払金	37,321	30,622
未払法人税等	7,452	6,267
賞与引当金	1,156	1,033
その他	37,188	52,897
流動負債合計	268,588	257,080
固定負債		
退職給付に係る負債	5,254	5,254
固定負債合計	5,254	5,254
負債合計	273,843	262,335
純資産の部		
株主資本		
資本金	941,473	941,473
資本剰余金	655,375	655,375
利益剰余金	723,495	558,921
株主資本合計	2,320,344	2,155,770
非支配株主持分	32,317	32,627
純資産合計	2,352,662	2,188,398
負債純資産合計	2,626,505	2,450,733

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年7月1日 至2023年12月31日)
売上高	347,039	432,210
売上原価	292,187	368,554
売上総利益	54,852	63,655
販売費及び一般管理費	198,804	226,949
営業損失(△)	△143,952	△163,293
営業外収益		
受取利息	9	8
固定資産売却益	158	752
生命保険配当金	385	356
未払配当金除斥益	232	186
その他	96	121
営業外収益合計	883	1,424
営業外費用		
為替差損	42	2
固定資産除却損	0	349
営業外費用合計	42	351
経常損失(△)	△143,110	△162,220
特別利益		
新株予約権戻入益	14,876	—
受取保険金	825	—
特別利益合計	15,702	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△127,408	△162,220
法人税、住民税及び事業税	1,235	2,043
法人税等合計	1,235	2,043
四半期純損失(△)	△128,643	△164,263
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△336	310
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△128,307	△164,574

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
四半期純損失(△)	△128,643	△164,263
四半期包括利益	△128,643	△164,263
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△128,307	△164,574
非支配株主に係る四半期包括利益	△336	310

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△127,408	△162,220
減価償却費	37,584	31,612
受取保険金	△825	—
新株予約権戻入益	△14,876	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△58	△122
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△9,991	—
受取利息及び受取配当金	△9	△8
為替差損益(△は益)	0	1
固定資産除却損	0	349
固定資産売却損益(△は益)	△158	△752
売上債権の増減額(△は増加)	265,644	122,590
棚卸資産の増減額(△は増加)	△59,678	△37,687
仕入債務の増減額(△は減少)	△87,233	△18,719
未払金の増減額(△は減少)	△11,509	△6,428
その他	△7,461	10,801
小計	△15,983	△60,583
利息及び配当金の受取額	4	2
保険金の受取額	825	—
法人税等の支払額	△2,470	△2,437
法人税等の還付額	8	2
営業活動によるキャッシュ・フロー	△17,615	△63,015
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△55,219	△59,110
有形固定資産の売却による収入	3	728
無形固定資産の取得による支出	△26,356	△50,239
資産除去債務の履行による支出	—	△385
敷金及び保証金の回収による収入	—	98
投資活動によるキャッシュ・フロー	△81,572	△108,907
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△13	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13	△1
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△99,201	△171,925
現金及び現金同等物の期首残高	1,718,039	1,517,194
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,618,837	1,345,268

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	204,265	12,362	130,411	347,039	—	347,039
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	204,265	12,362	130,411	347,039	—	347,039
セグメント損失(△)	△30,131	△3,611	△10,244	△43,987	△99,965	△143,952

(注) 1. セグメント損失の調整額△99,965千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△99,965千円であり
ます。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	303,080	3,156	125,972	432,210	—	432,210
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	303,080	3,156	125,972	432,210	—	432,210
セグメント利益又は損失 (△)	△51,360	△2,086	2,221	△51,225	△112,068	△163,293

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△112,068千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△112,068
千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社及びユビテックソリューションズは、継続的な売上高の減少及び前連結会計年度まで3期連続して営業損失を計上し、当第2四半期連結累計期間においても営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。

このような中、当社及びユビテックソリューションズは、2022年6月期を初年度とする4カ年の中期経営計画「ユビテック4.0」を策定して企業理念を再定義し、従来のIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用を今後のコア技術の柱とした新たなビジネスモデルへの転換を図ることで、当該重要事象の早期解消を目指しております。

なお、当社及びユビテックソリューションズは当第2四半期連結会計期間末において、現金及び預金1,845百万円を保有しており、財務面における安定性については十分に確保されていると考えていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。